

15 回秋田南高校同窓会東京支部総会懇親会挨拶

本日は米田校長、吉田同窓会会長、川合副会長、そして校歌を作曲された恩師小林清人様にご来駕頂き、100 名を越す皆様と懇談できること大変嬉しく思っています。第 15 回の東京支部総会懇親会にあたり、支部長として一言、簡潔に 3 点半ご挨拶申し上げます。

第1点 本会は 2 年に一回なので第 15 回の今年は創立 30 周年となります。この間、3 期生の立花顧問が 30 才の時に発意され 24 年間会長を勤められました。この間、レストランを経営していた 3 期生の高桑さんが場所と料理を提供してくれました。創立 30 周年を語るとき、まずもってこのお二人に心からの感謝の意を表します。

第2点 支部活動の目的は突き詰めて言えば会員相互の親睦と母校教育の発展に寄与する事です。このために支部としての活動をなして行くわけですが、会員相互の親睦と言っても、在校間の先輩 2 期、後輩 2 期が限度、母校に寄与すると言っても、縦の期別ではなかなか統一性が取れません。支部活動の基盤は各期毎の謂わば横の結束が何よりも大事です。また、今回 2 期生の波多野さんが中心となり小林先生の招聘事業を進めてくれましたが、この合唱部が示してくれたクラブ活動 OB 会という縦の繋がりの上に成り立ちます。期毎の名簿整理、クラブ毎の名簿整理などが支部の活性化、そして同窓会本部の活性化に繋がると思います。各期及びクラブ活動の中心となる人とよくコンタクトして進めたいと考えています。

第3点 今回は 100 名を越える皆様の参加をえて、賑々しく実施できましたが、今日に至るまで、名簿整理、発送作業の実施、そして高校時代書道部であった 4 期生鈴木さんが隸書で書いてくれた看板、副支部長、役員、積極的にボランティアで献身的に協力してくれた関係者に心からお礼を申し上げます。

最後の半分ですが、皆様一人ひとりに配られている日本酒は 2 期生の諸橋高清水酒造社長からのご挨拶がてらのお土産ですのでご承知ください。ご婦人の皆様は是非ご主人の晩酌に、男性各位には寝酒のお供にお持ち帰りください。

本日は久しぶりの邂逅の時間、大いに語り合って頂ければ幸いです。

支部長 榎 利美

20. 05. 15

15 回秋田南高等学校同窓会東京支部総会及び懇親会に参加して

「♪うるわしの海は うつつにも夢む 君の声のごと わが胸をうつ♪」

それは型破りの乾杯の音頭から始まりました。私、乾杯の音頭を頼まれたとき、今回音楽の小林先生がお見えになると聞き、頭の中にこのメロディーが浮かびました。私たち 1 期生は全員が音楽の時間に小林先生のピアノ伴奏のもとソロで歌ったものです。

2008 年 5 月 17 日第 15 回秋田南高等学校同窓会東京支部総会及び懇親会が東京千代田区九段にある「アルカディア市ヶ谷」でにぎやかに開催されました。天候にも恵まれ、役員懸命の努力もあり、過去最高の 100 名を超える参加者で大変な盛り上がりでした。

17 期高橋氏の司会のもと、総会は榎支部長のあいさつに始まり、活動報告、会計報告、監査報告、次期事業及び収支案、規約改正、役員改選と、滞りなく進みました。榎支部長からはおおむね、①東京支部 30 年を振り返り草創から活躍された立花氏、高桑氏に感謝の意を表す。②支部活動の発展のため期ごとの横の繋がり、クラブ活動等の縦の繋がりを密にし名簿等を整理し更なる活性化を図る。③今回の総会に向けての役員努力に、毎回素晴らしい隸書の看板を書いてくれる 4 期の鈴木氏へ感謝する。等の話がありました。

5 期南部氏の司会のもと、懇親会の部に入り、来賓の紹介、米田校長からは母校の現状、現役生の活躍などの話をいただき、吉田同窓会長からは同窓会本部の模様などの話がありました。

その後懇親会に移り冒頭に記述した乾杯から始まり、今回お招きした校歌を作曲してくださった小林先生から校歌が出来るまでのいきさつ、開校当時の苦労などを話していただきました。職員室で小林先生の前で正座させられた私にとっては懐かしい話が一杯でした。

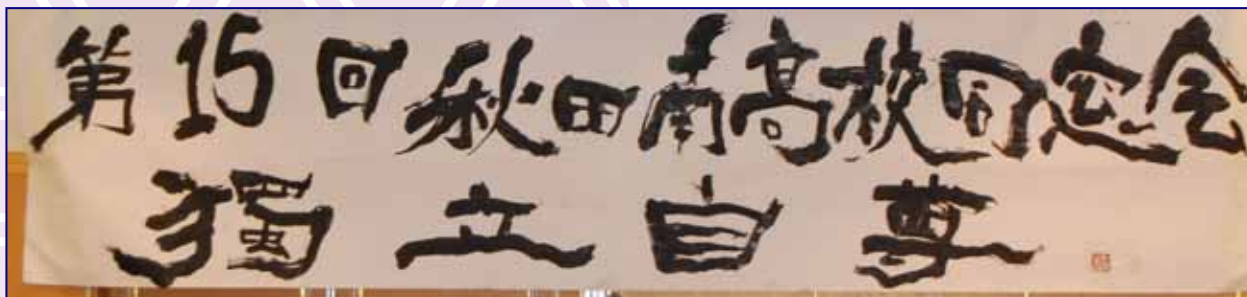
暫くの懇談の後、小林先生の指揮指導のもと「秋南賛歌」、「若い力」と全員で合唱し、最後に校歌を、小林先生の昔と変わらぬ気迫溢れる指導もあり、男女共学を意識して作曲したとの効果も発揮し感動の坩堝に、中には涙する人もいたようです。

4 期鈴木氏の健康に気をつけてまた会いましょうの中締めで無事全てを終了し、参加者全員は高清水酒造の諸橋社長(2 期)から届けられた心遣いの日本酒をお土産に、各期毎の 2 次会へと都内各所へ散会しました。一期の我々は米田校長をお招きして銀座に移動、草創期の話、学校の現状、甲子園への出場期待など等に話は尽きませんでした。

第15回秋田南高校同窓会東京支部総会・懇親会



平成20年5月17日(土曜日)
アルカディア市谷 参加者 101名



鈴木新副支部長の隸書 (4期)

次第

【総会の部】

支部長あいさつ (榎支部長 一期生)
議事

- 第一号議案 活動報告 (栗原副支部長 三期生)
- 第二号議案 会計報告 (清治会計担当 十一期生)
- 第三号議案 監査報告 (大塚監査担当 三期生)
- 第四号議案 規約改正 (榎支部長)
- 第五号議案 役員改選

【懇親会の部】

来賓紹介

学校長 米田 進 様
(特別来賓) 小林 清人 様
同窓会長 吉田 一生 様
同窓会副会長 川合 様
学校長 米田 進 様
同窓会長 吉田 一生 様
大山前支部長 吉田 一生 様

来賓あいさつ

乾杯

(懇談)

特別講話 小林 清人 様
校歌斉唱 元 合唱部
閉会 (中締め) 鈴木 四期生

退任役員

三浦拓夫副支部長(二期)
南部春美副支部長(五期)
浅野博司副支部長(八期)



榎支部長



米田校長



吉田同窓会会長



恩師 小林清人様

歴代支部長と貢献者



30歳から24年間支部長を
歴任された初代支部長
立花 克憲氏 (3期)



大山寛康第2代支部長 (1期)
退任役員:ご苦勞様でした



役員会等の場として長年
レストランを提供した
高桑 俊昭氏 (3期)



三浦 拓夫副支部長 (2期)



南部 春美副支部長 (5期)



浅野 博司副支部長 (8期)



1期 左から富永聿子、佐藤尚文、水野みどり、大平憲子、
石井栄一、米谷常夫、小笠原チエ子、藤原妙子、大山寛康、
小林洋一、榎利美(支部長)、山岡彰、田代純子、尾形郁郎



近藤泉
寺田良子

石山新鋭
木村弘二
曾和悦子

佐々木進
高野智子
木村 匠
伊藤園子

国柄雅雄
大江公子
平塚良治
高橋圭子

加藤 華
碓谷保子
岡本ちや子

竜石堂良子

三浦桂子

波多野佳久

2期生

三浦拓夫

川上桂子



3期生 左から大塚幸一、鷺谷三義、小瀧峰雄、水野隆、河田由紀子、照井啓一、立花克憲
右から栗原かほる、辻純一、木本純子、五十嵐和廣、高桑俊昭、菊池裕悦



4期左より、保坂武文、佐藤揚子、齋藤知子、千葉芳明
右より相場勉、大川由紀夫、鈴木義信〔隸書看板の書道家〕



5期生左から 山内加代子、安藤廣子、熊谷ちえ子、南部春美、
右から川井本部副会長、堀口裕子、斉藤寿、三浦和幸、柳原正行



6期生 左より熊谷清隆、佐々木貞昭、和島節子、本多芳子、
右より大森素弘鈴木仁司、鎌形正勝、小松慎悦、石丸裕子、



7期生 畠山幸子、高橋美紀、下間庸子、下川裕子 - 5 -





17期左より高橋肇、永田明、寺島充子、鈴木諭
19期右より 石井達、小野知範



微笑の絶えない明るい生き方は自分だけではなく周りにも健康をもたらす。微笑もうよ。



「高清水ワンカップ」が二期生の諸橋高清水社長から、参加者全員にお土産にするよう送られてきました。お心遣いに深く感謝します。



インターネットで「倉田よしみ」と検索してみ
ましよう。すごい実力ですね。



← 一期生の女性六人衆



→ 二期生メンバーと会長
← 五期生メンバー



→ 七期生メンバー
← よく集まっている五期生





小林先生指揮のもと、合唱部 OB/OG の熱唱



誠実な努力の継続が人様の信頼につながるんです。





小林先生と七十二歳の恩師に
六十一歳の支部長、先生若い！



←今回の小林先生
招聘実現に努力され
た2期生、波多野
さん



↑小林先生ご来駕を知り、静岡から駆け付け
た1期 田代(旧姓:二田)さん



余寒なお厳しき折ですが、先生にはいかがお過ごしでしょうか。
突然お手紙を差し上げますが、南高校同窓会東京支部長の1期卒業榎と申します。
在校中、先生の授業を受けた記憶がかすかにあります。と言うのも先生にご指導頂いてから四五年近く経過しており、記憶にあるのは秋田駅前の校舎から仁井田の方に移った事、授業の中身より、熱誠溢れる先生方の人と成りばかりです。
東京支部では二年に一回支部総会を行っていますが、今年はその第15回となります。先日、役員会を開催したところ、誰からともなく「校歌」を作られた小林先生にご来駕頂き、一時を一緒にしたいという意見があり、丁度合唱部OBの波多野さん(二期生)もおられ、先生の招聘依頼が満場一致で決まりました。
先生には、現在も各方面でご指導に専念されていると仄聞しておりますが、何卒万障繰り合わせの上、ご来駕いただきたくお願い申し上げます。平成20年2月吉日 東京支部長 榎利美

南高同窓会東京支部総会と懇親会及び合唱部の懇親会を振り返って

2期F組卒、二期生幹事

同窓会クラブ OB 会合唱支部会長

波多野 佳久

1. 1年前から同窓会総会開催前日までの出来事

(1) はじめに

今回、同窓会東京支部総会・懇親会開催に向けて支援要請があり、お手伝いさせて頂くことになりました。15周年の節目であり、どのような会にするか役員の皆様と悩み、『校歌を作曲された小林先生をお招きし、みんなで高らかに校歌を歌おう！』が決まりました。

(2) 小林先生のご招聘実現までの道のりとお手伝い

07年6月19日：同窓会東京支部幹事会にオブザーバーとして出席

- ① 窓会東京支部総会へクラブ OB 会合唱支部として全面支援することとした。
- ② 合唱部再建の思いを役員の方々にアピール。

07年9月8日：同窓会東京支部役員会にオブザーバーとして出席。

15周年であることから、小林清人先生を東京支部総会にお招きして『校歌のできるまで』『先生の指揮で校歌を練習し正確に歌う』など意見具申し、賛同を得て、合唱部 OB 会主催の『仙台での OB 会』で総会出席をお願いすることになりました。

07年9月15日：仙台秋保温泉 ホテル花乃湯で合唱部 OB 会開催。

出席者、小林先生、1期生2名、2期生8名、4期生4名。内、東京・名古屋支部からは6名参加し、2期生の還暦を祝いながら3時間ぶっ通しの合唱練習を行った。夜は更けるまで十分なる懇親会を実施し、更なる緩やかなまとまりを誓う。この会を実施するにあたり保有する独自の名簿で所在確認をしながら会合連絡をしました。そして、同窓会東京支部へお招きしたい旨を先生にお伝えし、各合唱団との日程調整を含めて御検討を頂くことをお願いしました。

07年11月10日：第1回 同窓会支部長、クラブ OB 会が秋田パークホテルで開催され、波多野が出席。同窓会の活動報告、同窓会名簿の売れ行き状況など苦しい台所状況の報告あり。第1回のこの会に求めるものなど、会の方向性を明確にする必要ありと感ずる。

08年2月9日：合唱部 OB 会東京支部の定例会合開催。於：有楽町 11:30~17:30

- ① 07年9月15日の仙台会合の報告。07年11月10日の第1回同窓会支部長、クラブ OB 会内容報告と同窓会名簿購入支援をお願い。同窓会活動費の会計報告。07年分の活動支援金が同窓会から未支給であることを報告。
- ② 同窓会東京支部総会支援を全面的に行うこと報告し、賛同を得た。
- ③ 懇親会

08年2月16日：同窓会東京支部役員会へオブザーバー出席

- ① 小林先生をお招きすることの状況報告
- ② 総会開催に向けて名簿整理支援

08年3月5日：小林先生より各合唱団からご了解が得られ、総会出席の快諾が得ましたので、詳細段取りを関係者と整合。

08年3月23日：小林先生より校歌の楽譜が届き、4期の千葉芳明君に伴奏を依頼。

08年3月25日：総会参加の呼びかけとして、総会通知に期別のレターメールを入れるべく手分けしてレターメールを依頼。

08年4月28日：波多野が、小林先生宅を訪問し、式次第内容など詳細を打ち合わせる。難しい校歌を歌いきることで感動を得たいので、校歌本番前に先生には『校歌の模擬授業』を行っていただきたいことの再確認をお願いしました。

(3) 合唱部2期生からの総会・懇親会出席レターメール のご紹介

① 寺田（旧姓、川村）良子さんからのメッセージ（卒業時H組）

2期の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。卒業して41年振り返ってみるといろいろな事がありましたが、総会に出席して懐かしい同窓会の皆様とお会い出来ることを嬉しくもあり楽しみでもあります。何かいいこと見つけれそうです！

② 碓谷（旧姓、鈴木）保子さんからのメッセージ（卒業時H組）

昨年秋田で還暦祝をできなかった二期生へ！是非、同窓会東京支部総会に出席して今年の楽しかった会の様子や懐かしい思い出の時間を過ごしませんか？

③ 波多野 佳久君 からのメッセージ（卒業時F組）

今回の総会に出席します！卒業時の3-Fは、灼熱と極寒を体験できた職員室の上の屋上の教室でした。スチームで弁当を温めて早飯をするとすぐに先生が飛んできたものです。1期生の卒業式直前に出来上がった難しい校歌を一生懸命練習して覚えたはずですが、はたして正確に歌えるだろうか？ということで、総会では、校歌を作曲された小林先生の指揮で歌うことになりました。校歌のできるまでの裏話も聞きたいものですね。

同窓会クラブOB会に合唱支部が登録されました。東京でも毎年2月に定例会を開き、6時間も懇親をしています。少しでも在籍していた方は全て合唱部OBとして登録していますのでお気軽に声をかけてください。総会でお会い致しましょう。

④ 近藤 泉君 からのメッセージ（卒業時C組）

桜花満開の候皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じます。

さて、5月17日に秋田南高校同窓会東京支部の総会開催のご案内を申し上げます。

私を含め二期卒業生は定年を迎えた年頃となっております。この機会に近況を報告し合い、第二の人生スタートの景気付けをとも思っています。秋田から音楽の小林先生も出席いただけるとの連絡もいただいております。

ぜひご出席いただきますよう宜しく御願ひ申し上げます。

(4) 当日の式次第の調整が1週間前！ 結局は、何も準備ができない状態で...

1週間前の幹事会で最終式次第が確定。『若い力』の楽譜がない！

同窓会、前日まで川越や大宮の楽器店を探しまわりましたが、古の曲になりつつあり、見つからず、半ば諦めて『誰か楽譜を持っていませんか MAIL』をしました。深夜に河田さんから力強い『何とかするよ！』の連絡があり、当日、プリントを準備頂けることになりました。これで、力強く練習できることを確信！河田さんありがとう。

『秋南賛歌と校歌』『校歌のできるまで』の印刷は5期の南部春美さんが輪転機を回し、総会出席者全員に準備してくれました。南部さんご苦労様でした。

(5) 小林先生と合唱部メンバーとの懇親会

会場の設営は、4期生の鈴木茂さんが段取りをしてくれ、1週間前の幹事会の日には会場の下見をして決めました。以下、呼び掛け文をご紹介します。

合唱部 OB. OG のみなさんへ

平成 20 年 5 月 12 日

秋田南高校合唱部懇親会のご案内

波多野佳久、鈴木茂

若葉の鮮やかな季節、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、同窓会東京支部総会に来賓として特別参加されます小林先生が私たち合唱部の面々のために、懇親会にも参加いただくこととなりました。

本当にお世話になり、今も変わりなく気にかけてくださる小林先生を囲んで、秋田ではなく、こちら東京での懇親会は今回が最初(で最後)の機会、チャンスではと思います。総会参加者は、小林先生、一期生2名、二期生8名、三期生2名、四期生3名、五期生2名の計18名です。既に参加表明している3名を加えますと20名以上の参加が見込まれます。もし20名を突破すると、”有楽町で逢いましょう”コールで始まり、ここ十年続けています首都圏「秋田南高校合唱部同窓会」の参加者の新記録となります。どうぞ、その新記録の立役者に総会参加者は勿論のこと、総会参加できない方々も加わって、今までに無い楽しい懇親会としたいと有志一同、無い知恵を絞っています。

ぜひ万障お繰り合わせの上、今回の懇親会へのご参加をお願いいたしたく、下記のとおりご案内申し上げます。[5月15日までに不参加の方のみ連絡をお願いいたします。](#)

記

1. 日 時 : 平成 20 年 5 月 17 日 16:00~18:00
2. 場 所 : KAIMI 亭 市ヶ谷店
3. 会 費 : 2,500 円。飲み放題ですが、食べ物、店長お任せ としました。
4. 次 第 : 開会挨拶・乾杯・合唱・懇談、《特別企画》あり、懇談・合唱・閉会挨拶
5. 新提案 : お楽しみに・・・!
6. 《連絡先》波多野佳久、鈴木茂

2. 同窓会当日

(1) 【開催前の段取り】

11:08 東京駅へ小林先生をお出迎えして、11:30 合唱部の会場集合へ合流。11:45 から練習開始。ピアノは4期の千葉君が担当。『秋南賛歌』を思い出しながら3回ほど練習し、当初1番で終わる予定であったところをやはり歌詞を2番まで歌うことにしました。

校歌に関しては、難しい校歌を歌いこなしてみんなが卒業してきたので、どれだけ正確に歌うことができるかが、感動を得られる POINT になるため、小林先生には、出席者全員の気持の指揮もあわせてお願い致しました。そのため、事前の練習では、久しぶりの手を抜かない曲止めが何回もありました。30分の練習で声も出始めたこともあり、それぞれの思いで本番に望むことになりました。伴奏をしながら千葉君も曲止めのたびに感激していました。

ちなみに出席者のうち合唱部在籍者は、()内は旧姓、
1期生：大山寛康(前、東京支部支部長)、田代(二田)純子、2期生：波多野佳久、近藤泉、

岡本（石井）ちや子、竜石堂（羽鳥）良子、寺田（川村）良子、曾和（加藤）悦子、川上（斎藤）桂子、碓谷（鈴木）保子、3期生：河田（京極）由紀子・木本（渡部）純子、4期生：相場勉、千葉芳明・佐藤（武埜）楊子、5期生：南部（笹淵）春美・堀口（井上）裕子・桑田（碓谷）美咲子。

(2) 【同窓会総会と懇親会】

同窓会東京支部総会は15周年（隔年のため30年経過）の節目を迎え、榎支部長のご挨拶と進行で13:00開始。米田現校長からは母校の現況を含めたご挨拶を頂き、吉田同窓会会長からも活発な東京支部の活動に対する御挨拶を頂きました。特別来賓として小林先生のご臨席を得て、25分程で全議案の承認を得て、懇親会へ入りました。

懇親会の総合司会は、5期生の南部さんで、今回、副支部長を退任することになりました。大変ご苦労さまでした。

(3) 小林先生からの特別講和

① 小林先生の職歴

秋田南高校	（昭和37年4月～42年3月）
秋田北高校	（// 42年4月～59年3月）
秋田県教育センター	（// 59年4月～62年3月）
秋田高校	（// 62年4月～平成9年3月で退職）

退職後

秋田東高校	（平成9年4月～10年3月）
聖霊高校（非常勤講師）	（// 14年4月～18年3月）

指導合唱団名 秋田女声合唱団 南部女声合唱団 合唱団アンダンテ

これらの合唱団には、南高校合唱部OBも在籍しております。そして、現在指導されている三つの合唱団の合同演奏会を今年の11月6日、18:30から秋田アトリオンで行う予定です。皆様、機会がありましたら是非、ご予約下さい。

② 秋田市文化団体連盟章

平成16年、秋田市文化団体連盟から、芸術文化活動の推進と連盟発展に貢献されたとして6部門（茶道、華道、邦楽、音楽、新舞踊、邦舞）8人が選ばれ、音楽部門から小林先生が『秋田女性合唱団指揮者として市芸術際などに参加。音楽の振興発展に尽力』受章されました。

③ 特別講和の内容は、『校歌のできるまで』（後述）と『1・2期生の苦勞』などのお話を頂きました。これまでに知りえなかったこともお話頂き、特に、1期生は感無量の内容がありました。

(4) 懇親会の終盤に合唱部の出番、そして 模擬授業開始！

合唱部に在籍していたメンバーが会場舞台に立ち、小林先生の指揮と4期生の千葉君のピアノ伴奏で『秋南賛歌』『若い力』を会場の皆さんと斉唱しました。総会前に練習した甲斐があり『秋南賛歌』では会場のリードができ、『若い力』では、会場のみならずその気になって声を出しあいました。

そして、小林先生の模擬授業開始！

私たちの校歌は他校に無い、難しい部分が3番の歌詞にあり、如何に正確に高らかに歌うことができるかがポイントです。模擬授業では、当時の厳しさを思い出すような先生の頻繁な曲止めがされ、会場もだんだんその気になった練習テンションとなり、いよいよ、校歌を正確に歌う本番に突入しました。

結果は、うたい終わったところで、会場のどこからともなく『お〜!』というどよめきがいよいよ続いたことから、間違いなく心に残る校歌を歌うことができたことが肌で感じました。そしてこの1年が、本当に走馬灯のように。。。



尚、2期生斎藤（加藤）則子さんから合唱部OB会秋田支部を代表して祝電を頂きました。

祝電内容

秋田南高校同窓会東京支部総会、合唱部東京支部の開催おめでとうございます。昨年、仙台にて秋田と東京の合同会合を開催しましたが、この度は、小林先生を迎えての同窓会は、また、格別の会となることでしょうか。私達、合唱部は南高校の歴史の中でほんの数年でしたが、とても意義のある充実した合唱部であったと思っています。学生時代の頑張りが今も継続しています。また、小林先生の合唱に対する熱意は現在も健在で私達を歌の世界に導いてくれます。この素晴らしい出会いをこれからも続けていきましょう。今日の出会いが素晴らしいことを秋田の空から祈っております。

南高校同窓会クラブOB会合唱支部 秋田支部 副会長 2期卒 斎藤則子

鈴木義信（4期）新副支部長の中締めで16:00に無事終了しました。

3. 合唱部懇親会

先生から合唱部の皆さんと別途懇親を持ちたいというご希望があり、アルカディア市ヶ谷から5分ほどの『KAIMI亭』で開催実現できました。本来、お休みでしたが、貸切としてOPENにこぎつけた御苦勞を4期生の鈴木茂さんに感謝！感謝！。横井川（沼澤）くみ子さんも重複していた日程を消化して駆けつけてくれました。様々な話題がありましたが、今回、3期生が還暦を向かれるということで17日ちょうど誕生日を迎えた木本さんのお祝いをしました。河田

さんは、次回の定例会で予定しています。貸し切りということもあってまたまた『秋南賛歌』を歌いました。

4. 【振り返って】

(1) 小林先生からのメッセージ

東京支部総会出席の皆さんへ

先日は同窓会東京支部総会と懇親会に出席させていただき、どうも有り難うございました。多くの卒業生の方々とお会いすることが出来、大変楽しい一時でした。一人ひとりの顔と名前が一致せず失礼したかもしれません。講話では、アルコールに弱い私はつい調子に乗って口が滑ったようでしたが・・・同窓会支部の集まりとしては、参加者も多く大きな盛り上がりを見せ、なかなか充実しているように感じました。今後も榎支部長を中心に活動をしていってください。会のさらなる発展をお祈りしております。

合唱部の皆さんには、秋南賛歌や校歌の練習にも参加していただき有難うございました。皆さんの歌っている姿を見ると音楽室での練習のことが思い出され、私も若返ったような気分になりました。今後もぜひ一緒に歌う機会を作っていただければいいですね。これからもまた皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。では以上簡単ですが御礼と感想まで・・・

小林 清人

(2) 河田由紀子さんからのメッセージ

今回の同窓会は、特別心に残るものとなりました。小林先生とは、退官祝いの時から何年かぶりにお会いできるので、浮き浮きした気分が出かけていきました。お姿を拝見したときは、わたしたちの学生時代と変らぬ小林先生がそこにおいでで、同級生の方が先生より年齢が上に見えるような印象を持ちました。

校歌のできた頃のお話、学生時代に伺ったのですが、また懐かしく耳を傾けて聞き入ってしまいました。

同窓会の最後に全員で小林先生指揮により校歌を歌うことになりました。私たち合唱部は壇上で歌ったのですが、同窓生がみんな立ち上がって一生懸命歌っている姿をみてとても胸が熱くなりました。カメラで記録を撮っていた方でさえ、シャッターの合間合間に歌っている……。感動でした。

歌はみんなの心をひとつにしてくれる。早く甲子園で校歌を歌いたい、先生にお聞かせしたいという気持ちになりました。

追伸：忘れられない思い出ができたことを、ウイーンの牧子さん（合唱部3期生）に報告します。きっと感激するでしょう。是非何年後かに合唱部の集まりに呼びたいと思っています。

河田由紀子 3期D組

(3) 波多野から 榎 支部長へのお礼

17日の南高校同窓会東京支部総会及び懇親会では、大変ご苦労さまでした。

15周年の節目にお手伝いことができましたこと、会長のご挨拶での過分なお話を頂きましたこと、よき思い出となりました。厚く感謝申し上げます。小林先生からも無事、秋田へ戻ったことと懇親会でのハイテンションな時間を過ごせたことのお礼のお電話を頂きましたので、ご報告致します。同窓会も合唱部だけでなく他のクラブOB会の活躍で縦の線が太くなれば同窓会が自分たちに何をしてくれるのか、自分たちは同窓会を通じて何をすることができるか？リンカーンやケネディの言葉に近いものになりますが、考え方は変わらないと思っており、だんだん回答が見えてきたり気がついたりしてくるのではないかと思います。その接着剤がどう

も同窓会の役目のようです。 今後とも、榎 支部長を中心として東京支部のご活躍を祈念申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。 どうぞ、役員の方々へよろしくお伝え下さい。

2期卒 波多野 佳久

多くの方に読んで いただきたい資料

秋田南高校同窓会東京支部の皆様へ

平成 18 年 5 月 27 日

秋田南高校同窓会クラブ OB 会

合唱部 OB 会 会長 波多野 佳久 (2F 卒)

平成 18 年 5 月 17 日の秋田南高校同窓会本部総会にて合唱部 OB 会が同窓会渉外部会クラブ OB 会へ登録することのご承認を頂きました。

1 期生の各クラブ活動開始にあたり、当初は音楽部として小林清人先生が設立されました。

1 年目の 10 月に楽器が入ってから合唱と吹奏に分離して活動することになり、合唱部は創成期から全国規模で活躍し、小林先生から高橋絃一先生に受け継がれて 8 期まで存続して活動致しました。

合唱部が存在していたことや母校の校歌がどのようにしてできたかなど、既に記憶の彼方になろうとしています。今回、同窓会クラブ OB 会に登録を頂くに当たり、小林先生に御願いして当時の思い出を記念執筆して戴きましたので、本日、出席されている皆様にご紹介致したいと存じます。

同窓会東京支部総会への出席記念として思い出の 1 頁として頂ければと思います。

1. 秋田南高校 校歌の制定

小林清人

(1) 歌詞について

初代校長の信太四郎背生は、恩師の境田四郎氏に校歌の作詞を依頼、作詞を承諾された境田氏は秋田に来られ、南高校と自然に恵まれた新井田付近を視察された。その後、歌詞の完成を心待ちにしていたが、歌詞が届けられることがなくそのまま 1 年が過ぎてしまった。

そうしているうちに秋田魁新報に「一期生が卒業するに当たり、まだ校歌が出来ていない秋田南高校・・・」との報道があり、学校として何とか作詞を急ぐよう境田氏に要望した。

その結果、漸く卒業式の 2 週間ほど前になって歌詞が届けられたのである。学校としてはあまりにも卒業式までに日数がなかったため、教頭の大里先生から「卒業式当日せめて校歌の歌詞だけでも卒業生に朗読させたい・・・」とのことを関係者に伝えられた。

(2) 作曲のいきさつ

私は以前に「秋南賛歌」と「祝歌」（落成式での歌唱曲）を作曲していた関係上、作詞者が決定したときから信太校長先生から校歌を作曲するよういわれていた。私にとってはあまりにも大役であったので辞退申し上げたが、「校歌はお前が作れ！」と言うことで聞いて頂けなかった。

そのようなことで、歌詞が出来上がるのを少しでも早くと思っていたが「もう少し待て・・・」と言うことであった。

歌詞が到着して数日後と思うが（この点ははっきりせず）卒業式の10日程前になった頃、大里先生から突然呼び出された。「一期生を卒業させるに当たってどうしても校歌を歌わせて卒業させたい。何とかして曲を作って欲しい、頑張れないか・・・」とのことであった。「そのためには校務を離れ、どこの温泉でも山の中に籠ってもよい。作曲するために一番都合の良い所に行っても良い」と言われた。その際作曲するにあたっての次の三つの要件を示された。

1) 新設校としての特色と新鮮さを出すこと。

※ 従来の伝統校とは違った味わいの曲にすること。

2) 若々しさ、躍動感にあふれた感じの曲にすること。

3) 男女共学校としての形を生かした曲にすること。

私は即答を避け、日頃からお世話になり、合唱部のよき協力者でもあった浅石雄次郎先生にこのことを相談、先生から「君も男だろう、しっかり頑張ってきて！」との励ましのお言葉を頂いた。私は作曲を引き受けることを決意した。そこで作曲をするため次のことを考え大里先生から了解を得た。

① 大学の恩師の指導、助言を得るために母校の山形市に近い所

② 宿泊するところにピアノがあること（ピアノ伴奏で歌う関係上） ※ 当時はホテルにピアノがあるとは限らず、上山温泉の村尾旅館にあることを思い出したので、ここに宿泊。

(3) 作曲の経過

次の朝秋田を出発。午後母校の恩師宅に参上、作曲のいきさつをお話し、次のようなアドバイスを頂いた。

1) 歌詞を何度も何度も繰り返して読むこと。

2) 歌詞の扱いについては、言葉のイントネーションを考えること。

3) 特にむずかしくせず、歌いやすいメロディーを考えること。

4) 曲全体の構成をしっかりと考えて作ること。

上記のような指導、助言のもとにその夜から作曲に取りかかった。

最初はいろんなメロディーや曲の形が頭の中でどうどう巡りし、全く形にならなかった。

二日目になって何とかメロディーの形が浮かんで来たが、ただ焦るばかりであった。

夜中に急に目が覚めて起きだし考えたり、苦しみの連続であった。

三日目になり何とか形が整ってきた。ピアノ伴奏は割合スムーズにまとめることが出来、夕方近くになってからのことと思うが、漸く曲を完成させることができた。

ほっとしている間もなく学校に『校歌できた。明日帰る』と電報を打った。（このことは一生忘れないだろう）

次の日の午前に恩師宅を訪ね、完成した曲を見て頂いた。そこで次の二点についての指導があった。

1) メロディーの一部分、四分音符を八分音符二つに分けた方が良い。（それが何処であったかは全く思い出せない）

2) 三番の最後 ～羽ばたきゆかん～ のところでドッペルの和音を使った方が良い。（これは今でもはっきり覚えておりさすが恩師と思った）

恩師からは良い評価を頂き、夕方秋田に帰ることが出来た。その間、作曲に費やした日数は正味三日あっただろうか・・・。今考えても未熟な私がこの短期間でよく曲が作れたものと思う。今なら絶対に出来ないこと。やはり若かったのが、何か勢いのようなものでやれたのかも知れない。

(4) 卒業式と校歌の歌唱

1) 練習

- ・ 1校時目に合唱部員全員を公欠扱いとし、音楽室で早速練習、テープに録音した。
- ・ 2校時目（・・・と思うが）に校長、教頭、他空き時間になっていた先生たちが音楽室に來られ、校歌の録音を聞いて頂いた。
- ・ 昼休みに全校放送で校歌を流した。
- ・ 放課後全校生徒が体育館に集合し（参加できる一期生も）、校歌の練習をした。
- ・ 次の日も同じく昼休みに放送し、放課後全校生徒が練習した（3日間だったと思う）

2) 卒業式当日

多くの来賓、保護者の出席のもと、一期生と共に全校生徒が新しい校歌を高らかに歌い、立派に卒業式を行うことが出来た。（このときのピアノ伴奏は私で、部長の波多野君が指揮を行った）

(5) あとがき

このようなことで校歌が作曲され、卒業式で歌われたのだが、校歌の作曲という身に余る光栄を与えてくださった信太校長先生や大里教頭先生、それに指導、助言をして頂いた恩師の先生に改めて御礼を申し上げたい。又、励ましてくださった浅石先生や協力してくださった先生方、そして一生懸命歌ってくれた合唱部員や全校生徒の皆さんに心から感謝している。

2. 校内合唱コンクール

(1) いきさつ

一期生が入学した当初は、当然のことながら学校際を行うことはムリであり、時期尚早ということであった。それに代わる文化的な行事として私が提案した校内合唱コンクールが実現した。

(2) 形

全員参加のもと、指揮、伴奏は生とが行い、決められた課題曲と自由曲を歌うこととした。自由曲は教科書にある曲の他に、親しみやすい曲が多く歌われた。

(3) 練習

クラスの自主性を重んじ、授業の他に昼休みや放課後に練習スケジュールを組んで行った。コンクールが近づいてくると、各教室から歌声が聞こえてきたものである。

(4) 特に印象に残った演奏

二年I組（男子クラス）が歌った自由曲の『箱根の山』（指揮 福田繁）は名演奏で、男性合唱の醍醐味を十分発揮した素晴らしいものであった。

(5) アトラクション

有江和朗先生が蝶ネクタイをし、先生方有志による『どじょっこ・ふなっこ』の合唱をしたのが忘れられない。生徒たちが大喜びし、すごい拍手があった。

3. 先生方の指導方針

先生方の平均年齢が他校と比べても非常に若く、校長先生を中心に良くまとまり、大変意欲的で意気込みが合った。その結果、次のような方針で生との指導に当たった。

- (1) 新設校として、他の秋田市内の伝統校に負けないような素晴らしい学校を作る。
- (2) 学力向上のためには徹底した学習指導を行い、進学面で立派な実績を作る。

(3) 着帽、服装、行動等すべての面で厳しく指導する。 ※ 職員室で正座させたのもこの頃である。

先生方の厳しく意欲的な指導により、南高校としての学校の評価が高まり、良い伝統が培われたことと思う。

資料

合唱部の活動実績 (全日本合唱コンクール秋田県大会、上位大会 成績)

回	年 度	秋田県大会成績と代表高		上位大会成績
		最優秀賞	混声の部 県代表	東北大会
1	S40	秋田南高	秋田南高	
2	S41	大曲高	秋田南高、大曲高	秋田南高(第2位)、 大曲高(優秀賞)
3	S42	大館桂高		
4	S43	秋田北高	秋田南高、大曲高、湯沢高、米内沢高	秋田北高・大館桂高(優秀賞)
5	S44	横手城南高	秋田南高、湯沢高	秋田北高・横手城南高(優秀賞)

6回以降は金賞・銀賞・銅賞・最優秀賞に表彰形式が変更された。

母校での合唱部再建の思いをもった御報告です。

以上

「南翔」支部便り原稿

東京支部 5月17日（土）に第15回東京支部総会が開催されました。東京支部は、初代立花支部長（3期）の尽力により発足して以来30年の年月が経過した大組織になりました。縁あって秋田南高校を卒業した仲間が30歳以上の年齢幅を持って集える母校同窓会支部になったということです。この節目である総会当日には、100名を超える同窓会メンバー、母校から米田校長、特別来賓に小林清人先生、本部同窓会から吉田会長（13期）、川合副会長（5期）の参加を頂き、会場を「アルカディア市ヶ谷」に大盛り上がりで開催されました。その時の様子をほんの少し報告させていただきます。

冒頭挨拶において榎支部長（1期）からは、チャーターズメンバーへの感謝と今後の支部活動への活力は、「融和親睦」、根底は各卒業期の横のつながりと合唱部のような縦のつながりによって充実した組織になる旨の檄が飛びました。卓上に並ぶ諸橋さん（2期）の心遣いに感謝しつつ（早く呑もうよ～）、司会の高橋副支部長（17期）、南部副支部長（5期）の進行に繋がりました。

米田学校長（平成19年4月から秋田南高校に赴任されています）挨拶においては、懐かしい秋南現役生達の頑張り状況が報告され、部活動では、野球部がシード8チームに、わか杉国体では剣道部メンバー達が貢献したこと、進路では、86%の生徒の進学が決まり県内では一番良い率だったことなどを報告して頂きました。母校は、今年4月に315名の新入生を迎え、卒業生が今年で18,154名に達し、50周年に向けて準備が始まっているとのこと。米田校長も母校卒業期で言えば6期生と同じ年、もうそろそろ同窓生の温かみが欲しくなる年齢かな？（失礼しました）次回参加もお待ちしております。

今回で3回目の参加となる吉田同窓会長からは、野球部・サッカー部など決勝まで行くが後一息のところになっているので、教育振興基金から応援していきたいとの話があり、夢の甲子園応援ツアー「母校を甲子園に!!」の実現へ夢をはせました。また、東京支部の活動（ハイキング等の活動）を秋田にも取り入れていきたいとの話にちょっとニンマリした役員達でした。

大山前支部長（1期）による乾杯の後、恩師小林先生から校歌制定のいきさつ、秋田県東京事務所の高橋さんによる「ふるさと納税、地元の医師不足」などの話がありました。お酒も入り場内が多少ガヤガヤ状態でしたが、お話し下さった方々有難うございました。（ちゃんと聞いていましたヨ）そんなこんなであっという間に時間が過ぎ、元合唱部の美声に酔い、鈴木副支部長（4期）の中締めの後、参加メンバーは三々五々、二次会へと散っていったのでした。

在京で「南翔」を読まれているあなたも（東京の同窓会場に移動参加できればOK!）同窓会メンバーです。お仕事が忙しい中、子育てが忙しい中かと思いますが、是非、再来年の東京支部総会に御出座して下さい。温かい酒好き話好きのメンバーがお待ちしております。お近くの同窓仲間・先輩後輩、判らない方は本校のホームページにでも何か書き込みして下さい。あなたのコンタクト待っています。

記：阿部豊（13期）